



プレスリリース

令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：

マリシュカ村及びゲタプ村灌漑用水路整備計画 供与式の実施

エレバン：令和6年10月16日

令和6年10月16日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「マリシュカ村及びゲタプ村灌漑用水路整備計画」の供与式が、ヴァヨツ・ゾル州マリシュカ村において開催されました。

本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使、ミカエリャン・ヴァヨツ・ゾル州知事、ハルツニャン・イエゲグナゾール市長、ババヤン・イエゲグナゾール副市長、ナザリャン・マリシュカ村長が出席したほか、本案件関係者や地元住民等が参加しました。

本案件は、ヴァヨツ・ゾル州イエゲグナゾール市のマリシュカ村及びゲタプ村の既存の農業用水路約898メートル（マリシュカ村：約698m、ゲタプ村：約200m）を改修整備することを目的としています。

本案件の実施により、両村の農地全域に水が行き渡るようになり、新たに約130ヘクタールの農地が灌漑可能となります。また、現在各村内で使用可能な灌漑用水量（毎分）が、平均約720リットル（マリシュカ村）及び約2,400リットル（ゲタプ村）から、それぞれ約2,400リットル及び約4,500リットルに増加し、農業生産性が向上します。

さらに、漏水を最小限に抑え水資源の効率的利用を図り、用水の住宅浸水を防ぎ、適切な灌漑整備がなされていないことに起因する健康被害を緩和することで、両村に暮らす計7,085人（マリシュカ村：4,778人、ゲタプ村：2,307人）の労働環境及び住環境が改善されます。

ミカエリャン州知事は「日本政府の寛大な支援に心から感謝申し上げます。この灌漑用水路整備計画は、我々の地域の農業発展、特にブドウの生産効率と住民の生活向上に大きく貢献するものです。引き続き日本とアルメニアの友好関係がさらに深まることを願っています」と謝意を述べました。



本案件関係者に祝辞を述べる青木大使



ODA プレートの設置



本案件関係者による記念撮影



ハルツニャン・イェググナゾール市長から
謝辞を受ける青木大使